

2024（令和6）年度

武蔵大学 FD 活動報告書

武蔵大学ファカルティ・デベロップメント(FD)委員会

武蔵大学長 高橋 徳行

2024 年度は、パリ五輪で日本代表が海外開催としては過去最多の 45 個のメダルを獲得したり、大谷翔平選手がメジャーリーグ史上初の「50 本塁打－50 盗塁」を達成したりするなど明るいニュースが届いた一方で、9 月には石川県能登地方が記録的大雨に襲われ、能登半島地震の被災地に再び大きな被害をもたらすなど胸が締め付けられるニュースもありました。

また、10 月にはノルウェー・ノーベル委員会が 2024 年のノーベル平和賞を日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）に授与すると発表しましたが、その一方で、ロシアがウクライナに侵攻してからすでに 3 年が経過し、しかも収束の兆しはなかなか見えません。

その他にも、AI（人工知能）が想像以上のスピードで、教育現場を含めて、私たちの社会に実装されていくなど、私たちを取り巻く環境は一日たりとも同じ表情を見せてはくれません。環境が変化すること自体は、今に始まったことではないのですが、変化の速度が凄まじい勢いで上がっています。

この中にあって、教育も日々改善や変革を迫られており、しかも受け身ではなく先取りの対応が求められます。そして、その時に必要なことを一つだけあげるとすれば、それは現場の声、現場で起きていることを知り、理解することだと思います。最初の変化は現場から生まれるからです。

本学で展開している FD 活動が担っている大きな役割の一つは、今、現場で何が起きているかをできるだけ正確に把握することにあります。例えば、授業評価アンケートもそのような役割が期待されています。そして、ただ現場の声を確かめるだけでなく、そこに双方向のコミュニケーションによる相互理解の役割を持たせたものが FD フォーラムになります。また、FD・SD 研修会にはベストプラクティスを知ったり、現場の声を教育の実践に変えていくための考え方や行動を学んだりする機会になっています。

今後も、現場を知り、コミュニケーションを通して相互理解を深め、次の行動のために学ぶことの基本は変わりませんが、情報技術の力も借りながら、より効率的かつ効果的に FD 活動を進めていくことが課題と認識しています。

大学を取り巻く環境は以前にも増して厳しくなるばかりです。昨年度の巻頭言で、「2022 年に出生数が 80 万を切ったばかりですが、2023 年は早くも 75 万人台になりました」と述べましたが、2024 年は 72 万 988 人と報じられており、しかも日本人に限定すると 70 万人を下回っているとのことでした。

今後、情報通信技術の発達、グローバル化の進展の中で、常に新しいことにも挑戦していかなければなりません。データサイエンス教育の強化が柱の一つである 2027 年度カリキュラムもあと 2 年でスタートします。引き続き教育力向上の中核を担う FD 活動へのご理解とご協力をお願いして巻頭言とします。

2024 年度活動報告

FD 委員長 桂 元嗣

ここ数年は新型コロナウイルスの蔓延に伴う対応で大きな変化が生じていた武蔵大学の授業運営も、現在ではほとんどの授業が対面で実施されており、キャンパスでは多くの学生が行き交っています。同時に大規模授業におけるオンラインを利用した授業など、ポスト・コロナの授業方法も定着しています。

2024 年度は、国際教養学部が開設されて3年目に当たります。これまでの反省点を振り返りながら、教職員が試行錯誤し、次年度に卒業生を送り出すべく、より良い教育の場となるよう励んでいます。また、同じく 2022 年度から変更となった時間割と授業スケジュールへの対応も3年目となり、うまく機能しているのではないかと思います。

さて、2024 年度は、具体的に以下のような FD 活動を実施しました。

第1に、春学期末と秋学期末に実施している「授業評価アンケート」については、今年度も引き続きウェブ上での実施となりました。アンケートの内容には自由記述項目も設け、既存の調査項目からは捉えきれない学生たちのニーズやアドバイスを汲み上げることとしました。従来からの懸念事項である回答率は、前年度と比較して春学期は微減、秋学期は微増で、全体としてやや下がっておりますが、これはアンケートの対象となる授業数が増えたことも関係しており、回答者数自体は増加しています。教員による個々の授業でのアナウンスが効いていると考えられますが、絶対的な水準としては依然として低い状況であり、回答率の向上は継続的な課題となっています。

第2に、昨年度に引き続き開催された FD・SD 研修会ですが、今年度はオンラインにて開催することになりました。7 月 11 日(木)に、株式会社ベネッセ i-キャリア様から講師の方をお招きし、「教学マネジメントを回すためのディプロマポリシー(DP)策定のポイント」というタイトルでご講演をいただきました。教学マネジメントに関するこれまでの変遷、可視化・検証化できる指標およびゴール設定の重要性、さらに他大学の事例など、大変興味深い内容で、盛況でした。

第3に、10 月 31 日(木)FD フォーラムをオンラインにて開催しました。「武蔵大学の教育(授業)に対する改善点について」というテーマで、今年度も各学部内で、ざっくばらんに意見交換をしてもらうことを目的に、各学部と教職課程に分かれての実施となりました。各学部、教職課程選出の FD 委員の司会のもと、26 名という例年になく多くの学生に登壇していただき、率直な意見や要望をプレゼンテーションしていただきました。専任教員に対しては、自身の所属学部・課程以外の FD フォーラムの様子も見ていただけるよう、後日、すべての録画を共有しています。また FD フォーラムにおいて登壇学生からいただいた意見については、そのリプライや今後の対応について改めてまとめた資料を作成し、全学へ公開しております。

以上、2024 年度の FD 委員会の主な活動を報告させていただきました。また、本報告書の最後には、会議記録、関連する事業報告書などを掲載しています。これらの記録を通じて本年度の本学の FD 活動の状況を理解していただくことができれば幸いです。

